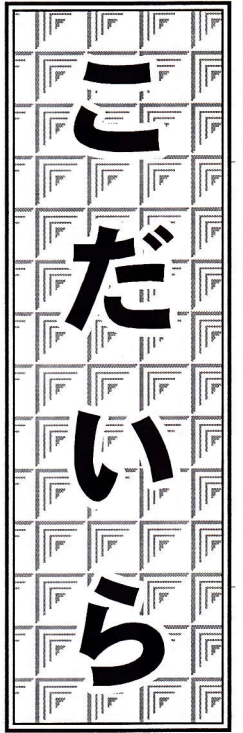




平成25年1月7日 訓練始め



第25号
小平学校広報紙
発行所
小平学校広報班

年頭の辞



小平学校校長兼ねて
小平駐屯地司令
陸将補 川久保 源映

小平市、駐屯地近傍にお住まいの方々を始め、小平市防衛協会、小平隊友会及び清武会の皆様、そして駐屯地の職員とご家族の皆様、新年あけましておめでとうございます。今年も小平学校、小平駐屯地を宜しくお願い申し上げます。

今年、小平駐屯地創立59周年、小平学校創立12周年を迎えます。また、観桜会は年度末前後、納涼祭は七月二十五日、創立記念日行事は十一月十六日にそれぞれ予定しており、皆様のご来場を職員一同心からお待ち

しております。

さて、私は今年の年賀状に「禅の心」と「知行合一」を実践しますと年頭の辞の決意を書き添えました。

禅の心とは、「聞いただけ、

見ただけでは物事の本質は分からない。直接体感する事で初めてその本質が分かる。」という意味だそうです。また、知行合一とは、陽明学(儒学)の言葉で「知識をつけることは行動することの始まりであり、行動することはつけた知識を完成させることである。行わなければ知っているとは言えない。知っているも行わないのはまだ知らないのと同じである。知って、行ってこそ、本当の知恵、真知である。」とされています。私は浅学なので仏教の禅宗と儒学の陽明学の関係は分かりませんが、円覚寺のテレビ放送を見て禅の心を聞いたとき、「同じ事を言っているな」、そう思いました。

「行動して評価される時代」に突入して十年が過ぎたでしょうか。我々自衛隊員は結果を出さなければなりません。それも国民にとって合格点でなければなりません。

私は着任時、職員に「為すべき事を為せ」を要望しました。特に「為せ」について、禅の心、知行合一を踏まえれば、「検討中」「調整中」の美名の下、あ

るいは準備・計画作成に長時間を費やし、徒に「遅疑逡巡」することなく、まずは行動し、結果を出しながら必要な検討や調整を並行的に行い、行動を修正して所期の目標を達成するスピード感、こういうスタイルを今のような流動的な時代は求めているのではないのでしょうか。

まずは、走りながら考えよ。

終わりに、自分への戒めも込めて、出典不明ながら一文を紹介いたします。

「果断は義より来たる者有り。智より来たる者有り。勇より来たる者有り。義と智と併せて来たる者有り。(是れ)上なり。徒に勇のみなるは殆し。」蛇足ながら「義」は正義感、「智」は智慧、「勇」は勇気だそうです。が、蛮勇とか「エイ、ヤー」とかが分かり易いと思います。つまり、平素から任務に照らして筋を通し、必要な準備を淡々と行って「構え」を十全なものにする努力こそが大切なのだと思います。今年もこの精神でやり抜きたいと思えます。ご鞭撻宜しくお願いします。



駐屯地協力会長 年頭挨拶



小平市防衛協会
会長 川里 春治

新年明けましておめでとうございませう。

小平学校・小平駐屯地の皆様におかれましては、ご家族ともどもお健やかに輝かしい

新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

一昨年は東日本大震災という未曾有の大災害での活動により、防衛省・自衛隊がその存在を強く国民に印象づけた年でありましたが、昨年は竹島・尖閣諸島の領土・領海問題や二度に及ぶ弾道ミサイル発射事案により、国民の自衛隊に対する関心や期待はより一層高くなったのではないかと思います。

そのような中、任務遂行の基盤を支える実務担当者を教育する小平学校の任務はますます重

要になっていくことと思ひます。

川久保学校長を核心として職員の皆様が任務に邁進され、素晴らしい成果を上げられますことをお祈り申し上げます。私ども小平市防衛協会も微力ではございますが、皆様のお力になりますよう努力してゆく所存でございます。

本年が、小平学校・小平駐屯地の皆様にとって、より良い年になりますことを心からお祈り申しあげまして、新年のご挨拶といたします。本年もよろしくお願ひいたします。

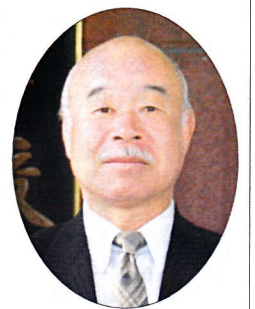


題等ありました。ただし清水寺貫主のお言葉通り「混沌とした世相に一筋の光明を見つけ、頑張ろうとする日本人の気概を感じた。」のは皆様も同様ではなかったでしょうか。とりわけ自衛隊OBとしては、政権を奪還した自民党総裁が選挙運動最中に、「憲法を改正して自衛隊を国軍とする！」と声高らかに唱えてくれたことが、未だ未だ先のこととは言え極めて大きな『金』であり、前進だと感じています。

とは言え相変わらず政情は混沌としており、更に中国、韓国やロシアなど周辺国との不安定な

環境情勢は顕在化しているため、現職自衛隊員の皆さんには今後益々重い任務が押し掛かって来るでしょうし、そうであるからこそ国民の皆さんは自衛隊に対するより大きな期待をしています。日本の安全保障の重要な一翼を担い、その最前線に求められる小平学校の皆さんの益々の研鑽と発展を心から願ひしています。

我々隊友会会員も、今後とも小平市防衛協会や清武会の皆様と協力し合せて、皆さんを出来る限り応援させて頂く心算です。本年が皆さんにとってより良い年でありませう祈っています。



清武会
会長 長野 陽一

新年明けましておめでとうございませう。

架空の干支、辰（龍）が去り、現実的な干支、巳（蛇）の年を迎えた。干支の意味するように昨年の政治の世界は大衆迎合的な絵空事が多く、現実的な政策が敬遠された。安全保障・防衛の世界は、「理想論だけでなく現実的に」「表だけでなく裏も」「タテマエ論ではなくホンネ論を」期待したいものである。

さて、昨年は、米国、ロシア、中国、韓国、台湾と我が国の安全保障・防衛に直接的に関係ある国々の指導者が同時に交代した。我が国を取り巻く周辺情勢は一層厳しくなり、防衛上より現実的な対応を迫られることに

なるであろう。自衛隊の現状に即した憲法改正、集団的自衛権の行使の容認による共同作戦を行う他国軍との信頼性の確保、国際平和協力活動をより安全で実効性あるものにするための関係法令の整備、そして、情勢の変化に対応した防衛体制の整備・強化は喫緊の課題である。

小平学校は、質、量ともに自衛隊最大の教育機関である。小平学校における情報、警務、会計、語学、人事、システム教育の各分野における人材の育成が自衛隊の行動の成否を左右すると言っても過言ではない。校長をはじめ教官諸兄の弛まぬ精進、努力に敬意を表したい。

清武会としては今年も、小平市防衛協会、小平隊友会等と協力して学校（駐屯地）の諸行事を後援するとともに政治的活動をも含めた防衛基盤の育成に寄与する所存である。

本年が、学校、関係者皆様にとりまして飛躍の良き年であることをお祈り申し上げます。

年末行事

駐屯地は、十二月二十一日（金）、隊員食堂において年末行事を実施した。

当日は、駐屯地協力三団体の会長等を招待しての餅つきの後、

今年一年の教育・業務を詠んだ川柳の発表、有志隊員による余興、駐屯地太鼓部による太鼓演奏が行われた。また、同日帰隊した南スーダン派遣隊員2名の出迎え行事も合わせて実施された。



皆様明けましておめでとうございませう。輝かしい新春をお迎えることとお慶び申し上げます。昨年を表す言葉は『金』でした。五輪での日本選手の躍動、山中教授の「金」字塔、逆に税や生活保護等の「金」を巡る問

各部課室紹介

今回は、人事教育部を紹介し
ます。

人事教育部は、「人事、広報、
厚生、法務、業務管理等」に関す
る知識及び技能を修得させるた
めの教育訓練を行う。」と多様
な職域教育を行っています。

もう少し詳しく紹介すると、
主に補任業務を教育して人事幕
僚を育成する補任教官室、自衛
隊と国民をつなぐ渉外・広報幕
僚を育成する渉外広報教官室、
業務隊等の厚生・共済業務に携
わる科員等を育成する厚生教官
室、部隊行動の適法性を確保す
るための法務幕僚や賠償補償担
当者を育成する法務教官室、定
年を控えた1等陸佐に対する業
務管理教育を行う業務管理教官
室、事務官等の初級、中堅管理



者等に必要な知識
及び技能を習得さ
せる教育を行う事
務官等管理教官室
の6つの教官室と
教務及び研究の2
つの科で、部の教
育を担っています。
年間15個課程等、
25コース、海上・
航空自衛官、事務
官等を含み約65

0名の教育を行っています。
部のシンボルマークは、「人」の
文字を大きな幹に2科6室8つ

の花弁に見立て、部長を核心に
人事教育部に入校する学生に美
しい花を咲かせるという意味を
こめています。

今年度、競技会においては、
玉入れ大会の2年連続優勝、隊
歌競技会は3位の成績でした。
現在、6連覇がかかっている持
続走競技会優勝を目指して部一
丸となって練成に励んでおりま
す。

已年にちなんで、人事教育部
は脱皮して学生教育に邁進する
所存です。今年もよろしくお願
いします。



人教部シンボルマーク

おやぼと取材

警務教育部は、平成二十四年
十一月十五日、全国自衛隊父兄
会理事 荒木肇氏の取材を受けた。

荒木氏は、月刊機関誌「おや
ぼと」に「私の原隊」という表
題で各部隊等の概要及び所属隊
員の経歴談や後輩へのメッセー
ジを紹介する記事を連載されて
おり、その21回目の連載のため
の取材であった。

取材を受けたのは、警務教育
部長 飯田1佐のほか、各科室
及び任用区分から選抜された経
験（特に失敗談）の豊富な職員
5名（最前任上級曹長 吉田准
尉、教務科長 川原崎2佐、捜
査教官 竹倉3佐、運用教官
浦3佐、研究助手 太田曹長）
であり、隊員クラブ「はなの舞」
において、入隊及び職種選考の
経緯、失敗談や教訓について熱
く語った。アルコールの力もあつ
て、話が弾み、2時間の予定が
3時間半に及んだが、荒木氏の
手腕により格調高く簡潔な記事
にまとめられ、「おやぼと」第
384号（24・12・15）に掲載
された。本記事を読み、有能な
後輩諸君が警務科を志望し、父
兄の方々がその後押しをしてく
れることを期待している。



隊歌競技会

小平学校は、平成二十四年十
一月二十日（火）、隊歌競技会
を実施した。

隊歌競技会は、平成十三年三
月の業務学校及び調査学校統合
後、学校としての一体感の醸成
や愛校心の涵養を目的に始めら
れたもの。

今年度は初めて部外協力者を
観客として招待して行い、駐屯
地の協力団体である小平市防衛
協会、小平隊友会、清武会（小
平校OB会）のほか、多摩偕行
会に所属する旧軍関係者及び自
衛隊OBらが見学に訪れた。

当日、校歌と自由曲の二曲を歌
い、審査員には小平駐屯地協力
団体の代表のほか、小平市出身
のプロのオペラ歌手山田大輔氏
（財団法人オペラアーツ振興財
団）にも加わっていただいた。
どのチームも一年近く前から練
習を重ねており、いずれとも甲

新着任部室長紹介



企画室長
1佐 鴻上 富男
中央情報隊本部から



人事教育部長
1佐 清瀬 羊司
大津駐屯地業務隊長から

十二月四日付



優勝した会計教育部

乙つけがたいハイレベルな戦い
となったが、自由曲「栄光の旗
のもとに」を歌った会計教育部
が優勝した。第2位は情報教育
部、昨年優勝の人事教育部が第
3位に入賞した。
閉会式において審査委員の山田
氏は、競技に真摯に取り組む姿
勢とその歌声に心が揺さぶられ
たと選手達の健闘を称える講評
を述べられた。

競技会の締めくくりには、全
員が小平学校校歌を斉唱した。
見学した協力者たちからは、感
動した、立派だった、元気をも
せられた、などの感謝の言葉が寄
せられた。

定年退官者紹介

永年に亘るご勤務お疲れ様でした。今後益々のご多幸とご活躍を祈念致します。



総務部
1尉 中川 政弘
十二月二日付



学校付
2佐 時里 和弘
一月九日付

永年勤続表彰

- (企) 3佐 三橋 武仁
- (総) 2尉 横山 努
- (総) 1曹 大内 晶子
- (総) 2曹 竹内 晃
- (総) 2曹 山口 貴之
- (総) 2佐 糸賀 裕
- (情) 3佐 安藤 泰弘
- (情) 3佐 安達 敏浩
- (情) 1尉 安藤 俊明
- (警) 2佐 池田 丈
- (警) 曹長 家入 友隆
- (警) 1曹 寺田 謙一郎
- (語) 1佐 島守 英次
- (シ) 3佐 花田 靖志
- (シ) 3佐 柴田 浩幸

多摩借行会

小平学校は、平成二十四年十一月十七日(土)多摩借行会総会を支援した。

多摩借行会は、旧陸軍将校及び幹部自衛官OBで構成される「借行社」の多摩地区の団体で約500名の会員を擁している。

この日、総会に参加した会員は44名で、総会に引き続き、学校長が「小平学校の概要」というタイトルで、小平学校及び平成二十二年三月に新設された情報科職種の現況等について約四十分の講演を行った。その後は

各種選抜試験合格者

◎第九十四期一般幹部候補生

- (会) 3曹 田邊 裕貴
- (会) 同 八幡 政利
- (会) 同 木村 直樹

◎平成二十五年度幹部特修課程学生選抜試験

- (警) 3佐 浦 秀明
- (会) 3佐 黒木 和彦
- (会) 1尉 阿部 利光
- (語) 1尉 玉木 龍太郎
- (人) 1尉 新藤 桂太



場所を隊員クラブに移しての懇親会となった。懇親会の最後には参加者たちが特に楽しみにしている「軍歌演習」があり、期別ごとにそれぞれが選んだ軍歌を歌い、自衛官OBからも自衛隊歌「この国は」を斉唱した。また、学校長以下の学校職員が小平学校校歌を披露すると、借行会会員から声援だけでなく心強い応援のエールが贈られた。時折小雨の混じる生憎の空模様であったが、懇親会会場は終了予定時間を過ぎてもおおいに盛り上がり、最後は名残を惜しみながら来年の再会を誓い合っ

お帰りなさい

平成二十四年六月から同年十二月までの間、南スーダンに派遣され、無事に帰国した2名を紹介します。



年末行事中に帰国の申告をする派遣隊員
(情)伊東 3佐
(語)堀口 3佐

AED教育

小平学校では平成二十一年のAED配置以降、学校全職員が一次救命処置及びAEDの取り扱い要領を演練し、緊急時に一次救命処置を施しかつAEDを使用できるようにするため、毎年普及教育を実施している。

実際の教育は、衛生課運用班長を中心とした衛生科隊員が担任し、先ずは講義を行った後、心肺蘇生モデルを使用したAEDを取り扱う実技を実施する。初めてAEDの取り扱いを学ぶ隊員の中には、AEDの使用に対して恐怖感等を持つ者もいる者もいるため、教育中教官は

出来る限り声掛をするように努めているほか、全職員の100%受講を追求するために、教育を四半期に1回基準として年4回実施し、各部室と調整し補備教育等も適宜行っている。小平学校では全隊員がAEDを正しく取り扱えるように、今後も教育を続けていく。



真剣に取り組む隊員達

平成24年度防衛省生協の火災共済下半期契約受付中!

「天災は忘れたころにやってくる」
備えは万全ですか?

防衛省生協の火災共済は、組合員の住宅及び家財の火災、風水害等(地震を含む)による損害に備えるための共済制度です。

掛金: 1口200円

※1月1日以降加入した場合(保障期間: 25年6月末)、1口100円

特に官舎にお住まいの方、家財等(動産)に掛け忘れてませんか? 上階からの水漏れや震災等も保障対象です。

■ 詳しくは生協係(内235)まで

防衛省生協の新たな体制

防衛省生協は、現在、防衛省共済組合の事務担当者が保険の加入・脱退手続き等を行っていますが、平成25年4月より、小平支部については、府中支部(空白)の常勤者が地域担当となり巡回する形となります。

何卒ご理解・ご協力をお願い致します。